

第 18 回歴史地震研究会プログラム

2001 年 9 月 7-9 日・象潟町公民館

研究発表会

9月7日 13時15分-16時45分 [歴史の地震・火山活動]

中村亮一・八代和彦・宇佐美龍夫・渡邊健: 地震危険度評価における歴史地震の役割について

打矢 貞子: 660km不連続面と歴史地震に関する一考察

坂部和夫: 山林絵図面に見る天正地震(1586)時の大規模山体崩壊と土砂移動について

小松原琢: 寛文地震(1662)=琵琶湖西岸活断層起震説に対する幾つかの疑問

松浦律子: 江戸時代の歴史地震の震源域位置および規模の系統的再検討作業について

宍倉正展・越後智雄: 1703 年元禄関東地震に伴う相模湾北岸地域の地殻上下変動

—離水海岸地形・生物遺骸の高度分布による検討

三枝恭代・早川由紀夫:

孀恋村鎌原における天明三年(1783 年)浅間山噴火犠牲者供養の現状と住民の心理

河内一男: 三条地震(1828)を描いた画帳「懲震咎鑑」

15時15分-15時30分 休憩

西山昭仁: 文政十三年(1830)京都地震における震災対応

中村 操: 1854年伊賀上野の地震の震源推定

小山真人: 富士山の噴火史研究の現状—ハザードマップ作成に向けて

福山雅嗣・谷口敬介・小山真人: 明治～昭和前期の地震・噴火に関する新聞記事データベース

武村雅之・諸井孝文:

被害資料から推定した 1923 年関東地震時の埼玉県における強震動分布と周辺問題

16時45分-18時15分 [歴史上の津波]

平川一臣・中村有吾: 古津波研究における地形学的観点の重要性: 十勝太平洋岸の例

佐竹健治・下川浩一・沢井祐紀・宍倉正展・Brian Atwater・Harvey Kelsey・Brian Sherrod:

17 世紀に北海道太平洋岸で異常な巨大地震が発生した?

佐竹健治・加藤幸弘: 1741 年寛保津波は渡島大島の山体崩壊によって生じた

村上仁士・上月康則・倉田健悟・杉本卓司・西川幸治:

紀伊水道・豊後水道における安政南海地震津波の進入特性

山本尚明・村上仁士・島田富美男・上月康則・佐藤広章:

記録に基づく四国4県の歴史地震津波に関する被害状況

加藤祐三・謝花恭子: 沖縄におけるチリ地震津波(1960)の状況

18 時 30 分-20 時 30 分 懇親会 (たつみ寛洋ホテル宴会場)

9月8日 9時－10時 【三陸の地震・津波】

都司嘉宣：江戸時代・明治時代記録に見る宮城県沖地震の再帰性

渡辺偉夫：伝承(伝説)から地震・津波の実態をどこまで解明できるか

－貞観十一年(869年)の地震・津波を例として－

渡辺偉夫：ビスカイノが見た慶長(1611)三陸津波(続)

津村建四朗：明治・大正時代の地震資料の整理について

10時－12時 【出羽国の地震津波と火山活動】

北原 糸子：明治酒田地震の被害と救済について

羽鳥徳太郎：秋田県南部～山形県沿岸の津波危険度

10時30分－10時45分 休憩

樋渡康子・佐藤魂夫・今村文彦：

日本海沿岸に発生した地震津波の波源と伝播の特徴について

都司嘉宣：天保4年(1833)出羽国沖地震津波の解明

林 信太郎：鳥海山貞観十三年(871年)噴火で溶岩流は噴出したか？

－日本三代実録にあらわれた「二匹の大蛇」の記録に関する検討

土岐田正勝：文化元年(1804)象潟地震の謎－鳥海山は噴火したか

秋田県地域活断層調査委員会・野越 三雄：1694年能代地震断層調査について(中間報告)

9月8日 14時－17時

公開市民講座 「過去の地震火山災害から学ぶ象潟地方の防災対策」

野越三雄(秋田大学教育文化学部)：1999年秋田県沿岸南部地震(直下型地震)時における
象潟町住民の意識・心理・行動等調査から

半田和彦(秋田東高校校長)：文化象潟地震による液状化現象

都司嘉宣(東京大学地震研究所)：明治期の秋田県山形県の内陸地震に学ぶ

今村文彦(東北大学工学部)：津波について知っているべきこと

林信太郎(秋田大学教育文化学部)：21世紀の鳥海山－火山防災とハザードマップ

17時30分－ 歴史地震研究会総会

9月9日 野外巡検

8時30分 象潟公民館前発

STOP-1 象潟(藍盛島, 船つなぎ石)

STOP-2 唐戸石

STOP-3 蚶満寺

STOP-4 象潟道の駅(象潟展望+休憩)

STOP-5 酒田市北境(活断層のトレンチサイト)

STOP-6 酒田市立図書館光丘図書館

酒田駅・庄内空港・象潟公民館で解散



公開市民講座の様子